

親子のきずな ● 子どもを育てる

親が子どもを育てるのは、普通のことに思いますが、でも、多くの虫や魚は、親が卵を残すだけで子育てをしません。哺乳類では、母親が授乳をして子どもを育てます。サルなどの霊長類では、子どもが親にしがみついていつも一緒にいます。人間に近いチンパンジーやオランウータンでは、とくに子どもの時期が長くて、ゆっくりと子育てをします。

チンパンジーの赤ちゃんは、母親の体から離されるとなきだします。母親が抱くと、すぐになきやみます。1歳をすぎると、子ども同士でも遊びはじめます。大きくなると、母親が子どもをおんぶするのを嫌がったり、授乳を嫌がったりするようになり、自立を促します。

弟や妹が生まれるまで、5年以上の長い時間をかけて、子どもは親のすることを見て、いろいろなことを学んでいきます。どの植物がどうやったら食べられて、ど

●オランウータンの母子(マレーシア・オランウータンアイランドにて)



こでいつ実をつけるのか。果物が少ない時期は、ほかに何を食べていいのか。どこにベッドを作って寝れば安全か。森の中には、おぼえることがたくさんあります。でも、チンパンジーやオランウータンのお母さんたちは、子どもに手とり足とり教えることはありません。子どもが自分から興味をもっておぼえられるよう、つねにお手本を見せ続けるというスタイルです。子どもがすぐにできなくてもあたたかく見守るのが肝心なようです。



お料理レシピ ● 親子で楽しむ手作りクリスマス !!

クリスマスは子どもにとってとても楽しい行事です。いまではすっかり日本の行事になった感がありますね。今回は親子で作れる簡単なクリスマスケーキ「ブッシュドノエル」をご紹介します。フランス語でノエルは「クリスマス」、ブッシュは「木、切株」で「クリスマスの薪」といった意味のケーキです。子どもにとって、調理をすることは作ることの楽しさや大変さを学び、「食」への関心にもつながります。親子で自由にクリーム塗りや飾り付けをして、「世界でたったひとつだけのケーキ」を作ってみてください。食卓に華やぎを添えるロールサンドイッチもどうぞ♪



管理栄養士でもある岡本秀己さん(滋賀県立大学人間文化学部)と岡本ゼミの学生のみなさんに考えていただきました。

ブッシュドノエル

材料 ●●● 天板 1枚分

- 【スポンジケーキ】・卵 3個・砂糖 90g・小麦粉 80g・無塩バター 30g・イチゴジャム 60g・バニラエッセンス 数滴
- 【生クリーム】・生クリーム 100cc・砂糖 15g・純ココア(無糖) 小2
- 【トッピング】・粉砂糖 適量・きのこの山・いちご・クリスマス用飾り

作り方 ●●●

【スポンジケーキ】①オーブンを180℃に設定し、天板にクッキングシートを敷いておく。②ボールに卵を割り、砂糖を加えて、60℃位の湯せんにし、泡だて器でよく混ぜ、バニラエッセンスを数滴入れ混ぜる。③ふるった小麦粉を加え、溶かしバターを入れ、さっくりと混ぜて天板に流し込む。④オーブンに入れ、15分程焼く。焼けたら紙をはがして冷ます。⑤ケーキ全体にジャムを塗り、まきすで巻いてロール状にする。
【クリーム】①ココアを少量の熱湯で固めに練る。②生クリームを氷水で冷やしながら泡立て、砂糖を加え、ココアも入れ混ぜる。
【デコレーション】ロールケーキにココア色のクリームを塗り、フォークで木肌模様をつけ、好みにトッピングし、茶漉しで粉砂糖を雪のように振りかける。



ロールサンドイッチ

材料 ●●● 12本分

- サンドイッチ用パン 12枚・マーガリン 適量
- 【A. ハムサンド・4本分】・ロースハム 4枚・きゅうり 1本・塩少々
- 【B. ツナサンド・4本分】・新玉ねぎ 40g・シーチキン 80g・マヨネーズ 大1
- 【C. たまごサンド・4本分】・ゆで卵 3個・ケチャップ 小2・マヨネーズ 小2

作り方 ●●●

①パンにマーガリンを塗る。②A. きゅうりは斜め薄切りにし、塩を振って水気を取る。B. 玉ねぎはみじん切りにして、シーチキンとマヨネーズと和える。C. ゆでたまごは荒くつぶし、ケチャップとマヨネーズと和える。③A・B・Cの具材をそれぞれパンに乗せ、ロール状に巻く。④アルミホイルで包み、そのまま斜めにカットする。



うみかぜだより 第12号

2010.12.20



こんにちは!
「うみかぜだより」です♪♪♪

募金をすると赤い羽根をつけてもらえる、赤い羽根共同募金は1947年に始まりました。当初は戦争の打撃を受けた福祉施設を中心に復興への資金支援をすることが目的の活動でした。その後は民間の社会福祉事業の推進のために活用されるようになり、さらに最近では、「さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体や市民の行動を応援する“じぶんの町を良くするしくみ”」として、活用のされ方が大きく広がってきています。

子育て応援ラボ「うみかぜ」の2009年度の活動も「草の根ボランティア活動支援事業」として赤い羽根共同募金の助成を受けました。内容は、子育てサークル『インファンクラブ』の実施です。先日、活動成果の評価のために助成事業の担当者および監査委員の方々の訪問を受け、活動の内容や今後の方向について懇談する機会を得ました。

彦根市内ではまだ少ない0~2歳のお子さんとそのお母さんを対象とした活動であること、「子育て日記」の交換など支援スタッフとのコミュニケーションを密にしつつお母さん同士の仲間づくりをめざしていること、活動メニューの細かい工夫などについて、監査委員の方から高く評価していただきました。同時に、日中に母子で集うことのできる「恵まれ

た」の方を対象としていることに募金者の理解が得られるだろうか、との懸念も示されました。

『インファンクラブ』も「うみかぜ」が併せて実施している音楽遊びサークル『ミュージッククラブ』も、このような集いの場がお母さん方の身近なところにあるとよいな、との思いで、先輩ママと教員など専門職の経験のある方々のご協力をいただきながら運営しています。地域にはさまざまなサークルがありますが、それぞれに独自の特色があることでしょう。暮らしぶりがどのように見えたとしても、育児における困難はさまざまにあります。どのサークルもこの地の子育て支援の充実のために大きな役割を果たしてきておられ、まさに“じぶんの町を良くするしくみ”の中に位置づけられています。そのような活動の輪が繋がって広がっていくことで、地縁、血縁に、子縁が重なった地域づくりが進みます。

幅広いご意見に耳を傾ける必要があります。しかし、子育てを支えあう地域づくりの大切さを感じる時、子育て支援の活動は善意の募金の配分先として十分に値するとの思いも強まります。このことに今後一層の理解が得られることを願いつつ、また新しい年を迎えます。



みんなあつまれ 次回は1月22日
と き 毎月第4土曜日 10:00~12:00
と ころ 滋賀県立大学交流センター 2階研修室
歩くのが、話すのが、他の子どもよりちょっとゆっくりかもしれない。子育てサークルに参加したいけど、うちの子はみんなと一緒に遊べないかも…。そんな気持ちを分かち合える仲間づくりをしませんか? 子どもと一緒に気兼ねなく集まれる場所、先輩お母さんから体験を聞いたり、情報交換したりしています。対象は、3歳~6歳のお子さんご家族。どうぞ気軽に参加してみてくださいね♪
問合せ先: E-mail uspnari@yahoo.co.jp

第3回 うみかぜセミナー: 発達障害と歩む
と き 1月29日(土) 13:30~15:30
と ころ 滋賀県立大学交流センター 1階研修室
木下孝司氏(神戸大学教授) 講演「乳幼児期の発達と障害をもつ子どもの保育・療育」
発達の主人公として他者との関係を子どもがいかに築いていくか、障害をもつ場合の発達と保育・教育の相互関係についてもお話いただきます。事前登録不要、参加無料です。皆さま、お誘いあわせてご来場ください♪
問合せ先: 滋賀県立大学子どもの未来応援プロジェクト
tel.090-7343-2405 E-mail usp-umikaze@nifty.com

人間らしく生きていく力とは？(4)

父親の子育て

「男女共同参画」という言葉がよく聞かれるようになった今日ですが、わが国における雇用状況は厳しさを増し、残業や長時間労働、リストラ、倒産などが社会問題となっています。共働き家庭も増え、子どもが保育園へ通う家庭が多くなりました。ある調査によれば、父親自身の8割、母親の7割が、父親が子育てに協力的であると感じています。しかし、父親の就労時間が長いために、十分に育児参加できない、親子関係を築きにくいという声も聞かれます。安心できる、落ち着いた家庭生活を実現するには、父親の就労時間の短縮が何より必要なのかもしれません。父親

が家庭でゆったり過ごす時間が増えていくことを願いつつ、今回は父親の子育てとはどのようなものかを考えてみましょう。

まず、母親の立場からすると、たとえば短い時間でも父親がそばにいて、子どもと接している自分にまなざしを向け、声かけしてくれると、何よりホッと安心できるものです。「なにかしてほしいことはある？」「どうしたの、だいじょうぶ？」「そんなこともあるらしいよ」と母親の不安を和らげるような声かけがあれば、母親の気持ちは安定し、



父親の忙しさへのねぎらいの気持ちも生まれることでしょう。また、母親が子どもに集中するとき(授乳時など)、家事や他の子の相手を引き受けてくれるとどんなに助かることでしょう。

ごつごつした身体の感触、広い背中、豪快な「たかいたかい」や「飛行機ブーン」。子どもにとっても父親は母親とは一味違う存在です。散歩、絵本の読み聞かせ、家事、キャンプなど、子どもはさまざまなことを父親と一緒に体験していきます。こうした親との体験をとおして、未知の世界への扉は開かれていきます。

もちろん、これらの生活体験は父親にしかできないことではありません。子どもの身近にいるおとながその役割を担うことができます。こうしたかわりの中で、子どものいいところをいっぱい探して認めてあげると、その子は「自分っていいんだ!」と自信を持つことができます。あるときは子どもの目線で、またあるときは子どもに道を開くものとして、父親として、母親以外の身近なおとなとして、進んで子育てにかかわっていきましょう。いつも相手の立場に立ってものごとを考えるという習慣が形成され、子どもの成長とともに自らも人間として大きな成長を遂げていっていることに、ある日、気づかされるのではないのでしょうか。



お子さんの手をせんべいに見立てたふれあい遊びです。「せんべいせんべいやけたどのせんべいやけた」を数回繰り返した後、お子さんの手をムシャムシャと食べます。初めは「なに??」といった表情の子どもたちも、何度か繰り返していくうちに「いつやけてムシャムシャしてくれるのか?!」とワクワクドキドキした表情で待っています。「ムシャムシャ」の声でキャッキッと声を出したり、手をわざと隠して「もうないよ?」と言ったり、「もっと!」と手を出してきたり…と大喜びです♪

「せんべい」は2人でももちろん楽しめますが、大勢でも楽しめます。数人で輪になり、両手を出し合います。歌にあわせて代表者の1人がみんなの手をつついていきます。「た」の部分でつづいたお子さんの手をひっくり返します。何度も繰り返し、両手がひっくり返されたお子さんの手をムシャムシャ食べます。みんなのせんべい(手)が食べられるまで繰り返します。大勢で遊ぶと「いつひっくり返されるかな?」とドキドキワクワクも大きくなり、子どもはお母さんの顔を見て「次かな?」と合図を送ります。ひっくり返されるのを嬉しいような困ったような表情をしながら、代表者の動きをじっくり観察している様子はとっても可愛いですよ★
寒くなってきて、お家で過ごすことも多くなる季節。「せんべい」をやいて心も身体を温まってみませんか?

ふれあい遊び

せんべい! わらべうた
せんべいせんべいやけた
どのせんべいやけた
♪♪



世界の子育て

中国・内モンゴル



朝青龍や白鵬の故郷として知られるモンゴル国とは別に、内モンゴルと呼ばれる自治区が中国北部にあります。今回は内モンゴルご出身のボルジギン・ブレンサインさん(滋賀県立大学人間文化学部)に、内モンゴルでの子育ての思い出をご紹介いただきました。内モンゴルの事例から、中国の子育て事情を探ってみましょう。

私が子育てを経験した1980年代末頃の中国の都市部では、子どもが生まれると母親は半年から一年間の産休をとり、父親もまた生まれた最初の1ヶ月間は「産休」をとることができました。中国では、出産した母親に対する最初の月の介護は神経質と言えるほど緊張感にあふれたものです。「坐月子」と呼ばれるこの1ヶ月の間、母親は風呂とシャワー、外出などを一切禁止されます。食事もお粥など柔らかいものを中心とし、赤ちゃんの世話よりも母親への世話が最大の仕事となります。そのため双方の親が近くにいなかった私たちのような家庭では、夫の「産休」なしではとても乗りきれなかったと思います。

その頃の中国では、託児所は職場が持っているもので、通常一歳以上の子どもなら預けることができました。母親と父親が働いている職場のうち、どちらか条件のよい方の託児所を選び、子どもを預けます。当然送り迎えも夫婦分担です。片方が子どもを迎えるなら、片方は買物でもして夕飯の仕度を行います。今考えてみれば収入は低く、物は不足してはいましたが、ほとんどの家庭は夫婦が力合わせて一緒懸命になって小さな家庭を築いていました。いわば「古き良き」時代でありました。

市場経済に移行し、民間企業が多く出現して激しい競争原理が導入されている現在の中国で、このような「気前のいい」制度がまだ一般的なのは定かではありません。しかし共働きが普通の中国で、家事と子育ての分担が「夫婦半々」というのは、現在でも見られる一般的な考え方です。家庭によっては、夫が家事を多く分担するケースも多く、それを見た日本の男性たちは「中国の女性は怖い」というイメージを持つほどです。

中国社会には、日本では想像すらできない、いろいろな問題があると思いますが、少なくとも家事や子育てにおける男女平等の感覚が社会全般に浸透しています。この点は、少子化が社会問題となっている日本にとって学ぶべきところでありましょう。



並んで駆ける



牛の母子